

# 巨星墜つお

北村 豊

それは、私が大学に勤務していた頃であったと記憶している。

松本歯科大学の学生が、大学近くのコンクリートの電柱に車で激突して重傷を負い、命が助かったただけでも不

思議なくらいの自損事故であった。

その証左に、衝突した電柱は強度を出すために埋入してあった多数の鉄筋が1メートルくらいの幅で鳥籠のように丸見えになっていたほどであった。

その事故で失ったものは多く、その学生は頸髄損傷による四肢体幹の完全麻痺となってしまった。その彼がど

ういうルートか辿り着いた先が長野市に在る県のリハビリテーションセンターの所長の橋爪長三先生であった。

そのお陰で、それまでに受診した整形外科医師は全員匙を投げたいたにもかかわらず、なんと彼の将来の歯科診療には不可欠の両手の運動や知覚機能が回復したのであった!!

その事を橋爪先生からお聞きしたのは、20年間勤務した松本歯科大学を辞して、新生病院に赴任してからのことであった。私が、同大学の教員をしていた!という偶然もあり、その彼のことをその当

時近況を交えて話して下さった。

私も、風の噂で聞いてはいたが、その後の彼は四国で開業している、その地域の住民にはとても慕われる歯科医師となっている、ということを抑えめながらも嬉しそうに話して下さる橋爪先生であったが、それを聞き及んだ私は深く感激したことを覚えていいる。

先生の訃報に接した私は、直ちに大学の理事経由で彼の診療所の電話を知り、大恩人の先生の死をお葬式の当日に知らせることが出来てほっとした。

「点と線」といえば、

有名な松本清張の推理小説を彷彿させる年配の人も多いと思う。人生では多数の点の間に線が引ける。2点を2人とした場合、同じ時空を生きていてもその間に線が引かれないことも多い。本稿に出た2人の間に線が引かれることにより、2人の大きな喜びに留まらずに多くの人々との間に線が引かれて行き、仏教で言う慈悲のバトンタッチが行われていることは確かである。

(上高井郡小布施町 信州口腔外科インプラントセンター所長)

新春

文芸

